



Annual Report 2023



認定 NPO 法人 FaSoLabo 京都

〒604-8273

京都市中京区姉西洞院町 542 サンフィールドビル 3 階

☎ 075-252-5088 ✉ office@allergy-k.org



ホームページ

1. 食物アレルギーの子どもとその家族の QOL（生活の質）の向上

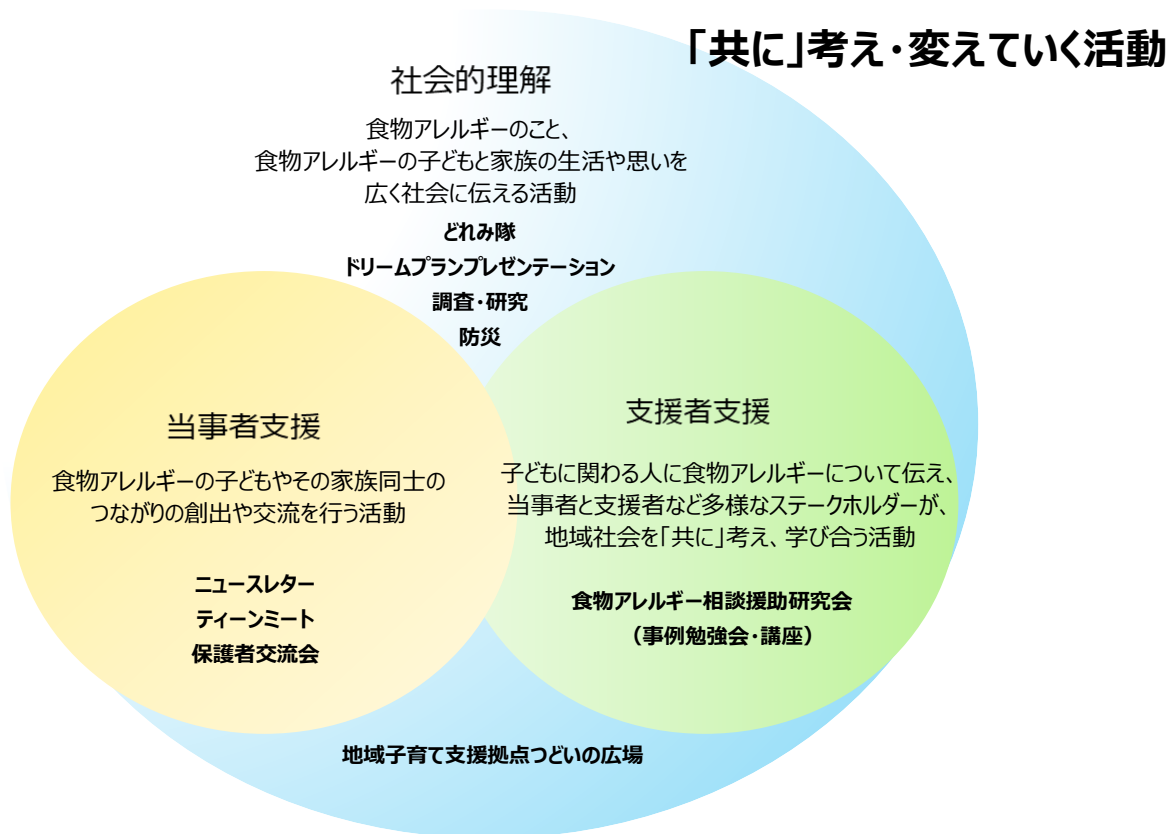
2. 食物アレルギーへの社会的理解

「Fa」は food allergy（食物アレルギー）

「So」は social work（ソーシャルワーク）・sower（種をまく人）

「Labo」は Laboratory（研究所）

法人名称には、食物アレルギー支援の将来へのたくさんの思いや願いが込められています。



私たちは、活動理念に基づきミッション達成のために、社会的理解・当事者支援・支援者支援の3つの柱で事業・活動を実施しています。それぞれの事業は、個々に実施するのではなく、相互に関わりあいながら進めています。

理事長 ごあいさつ

いつも、私たち FaSoLabo 京都の活動を支えてくださりまして、ありがとうございます。

2023年度の事業報告をお届けします。本法人は、2005年4月に任意団体としてスタートして以来、多くの方々に支えられながら、食物アレルギーの子どもと保護者や家族を支える活動に取り組んできました。いつも支えてくださっている皆さんの思いを大切にしながら、これからも様々な事業に取り組んでいく所存です。

2020年度以来、コロナ禍のなかで思うように活動が出来ない状態でしたが、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の取り扱いが5類相当となるに伴い、徐々に対面での活動も復活させることができました。

これからも、食物アレルギーをもつ子どもと家族が当たり前、安心して暮らせる環境づくり、そして一人ひとりの子どもが健やかに育つ、住みよい地域や社会づくりに向けて、皆さまと力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2024年6月

2023 年度の



たい どれみ隊



令和 5 年共同募金公募型助成事業

どれみ隊プロジェクトは、「子どもによる、子どものための、子ども視点の発信から、食物アレルギーの社会的理解や配慮が広がり、誰もが暮らしやすい社会となること」を目的に、2022 年秋からスタートした活動です。

どれみ隊には、食物アレルギーの有無に関わらず、子どもも大人も活動に参加しています。

食物アレルギーがあるからこそ「挑戦したいこと」と「社会に知ってもらいたいこと」を、子どもが主体となり企画・運営を行い、大人は子どもたちのサポート役となるのが活動の特徴です。

◆ 挑戦しました！

- 8/26 (土) 食物アレルギーフレンドリーなお菓子パーティー
- 9/2 (土) 米粉のパンを作ってみよう！
- 12/2 (土) 商品試食会
- 2/4 (土) 次年度計画会 & 勉強会「食物アレルギーって何だろう？ みんなで学ぼう」
講師：青山三智子先生（アレルギー専門医）

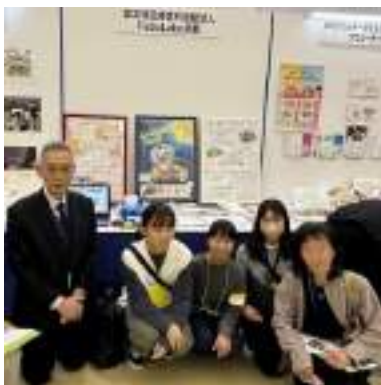
○米粉のパンを作ってみよう！

小学 5 年生と 2 年生の姉弟のどれみ隊メンバーが、「いつもお母さんに作ってもらっている米粉のパンをみんなで一緒に作りたい！」という思いから企画・運営に挑戦しました。当日は、提案した姉弟が先生となり、参加者と一緒に米粉のパン作りをしました。



▲米粉のパンをつくってみよう！

◆ 知ってもらいました！



11/17 (土) 第 60 回日本小児アレルギー学会 @京都市勧業館みやこめッセ

中学生 2 名のどれみ隊メンバーが、どれみ隊の活動をパネルにまとめ、ブースに訪れた方たちに説明を行いました。
大人ばかりの会場で、中学生が活動を行う姿にたくさんの方が立ち寄り、子どもたちから説明を聞いたり、質問をしたりしている様子が印象的でした。

参加者の声

学会に行ったことがなかったので最初はとても緊張していたし怖かったけど、私たちのようなアレルギーのある人が、過ごしやすい社会になるように、さまざまな会社が色々考えてくださっているのだと知れてすごく嬉しかったし、もっと増えて欲しいと思いました！もうちょっと頑張って、初めての人にもしっかり話せるようにならないといけないな、と思いました！
(中学 3 年生 鷹影咲良)



2/24 (土) H2O サンタチャリティートークイベント @阪急うめだ本店

小学 4 年生から中学 1 年生のどれみ隊メンバー 3 名が、イベント会場に集まった来場者に向け 2023 年度に行ったどれみ隊の活動報告を行いました。
どれみ隊が子ども主体の活動を通して、食物アレルギーの社会的理解を広げていることを伝えることができました。

参加した子どもの保護者の声

- ・普段恥ずかしくて学校でもなかなか発言できない子どもにとって、貴重な経験ができたと思います。
- ・とても良い経験をさせていただき、本当にありがとうございました。
- ・親は見守っているだけ。子どもが主役という感じで、微笑ましく、楽しく見学しました。子ども本人も、緊張しながらも楽しんでいました。

4

5

6

7

【通年】※
食物アレルギーの子どもの必要と
している子ども視点の自立支援の
調査研究

13
(土)
子ども会議①

27
(土)
子ども会議②

3
(火)
子ども会議③

18
(日)
オープンキャンパス※

8
(土)
乳幼児のスキンケア講座

29
(土)
保護者交流会※

オープンキャンパス 食物アレルギーフェスタ 2023

開催日 6/18日(日) 場所 ひと・まち交流館 京都 参加 66名 ボランティア 8名

◆ 事業報告会

当法人の2022年度の活動を報告しました。
事業活動で協力いただいた方々からも感想などを
発表していただき、FaSoLabo 京都について
詳しく知っていただける機会となりました。



◆ 食物アレルギー講座

■ 食物アレルギーの子どもの自立

～子どもが真ん中の食物アレルギーの治療～

講師：土屋邦彦先生（京都府立医科大学講師）

パネリスト：青山三智子先生（専門医）上原久輝先生（専門医）

ゲストスピーカー：竹谷日向さん（大学4年生）

医師、患者、それぞれの立場で、食物アレルギー診療における子どもの
の自立について、現状を共有し、会場全体で考える機会となりました。

■ 基礎から学ぶ食物アレルギー

講師：楠隆先生（龍谷大学農学部教授、当法人理事長）

食物アレルギーの基礎や緊急時対応について、支援者、当事者、学
生、一般市民が、地域全体で学ぶ機会になりました。



◆ お楽しみコーナー

子どもたちが運営するお店屋さん、協力団体・企
業による射的コーナー、食物アレルギー配慮商
品紹介コーナーなどが並び、子どもたちの楽し気
な姿や、参加者と団体・企業の方々の賑やかな
交流の様子がありました。

※ご協力いただいた団体・企業 ※敬称略・順不同

同心児童館/石井食品株式会社/イーデライツ株式会社/江崎グリコ株式会社/オタフソース株式会社/株式会社カスタンネット/
熊本製粉株式会社/ケンミン食品株式会社/日本ハム株式会社/いっ『福』café/株式会社禾/株式会社永谷園ホールディングス



26
(土) **とれみ隊**
お菓子パーティー※

2
(土) **とれみ隊**
米粉パンづくり※

8
(金) **ついで**
栄養士さんの日※

30
(土) ティーンミート※

21
(土) 保護者交流会※

23
(月) **ついで**
学童保育児童へ食物アレルギー
学習会@同心児童館

28
(土) おいもほり

28
(土) 三条会ハロウィン夜店出店※

10
(金) **ついで**
みんなの離乳食・幼児食

17~18
(土~日) 日本小児アレルギー学会
ブース出展※

保護者交流会

開催日 7/29 (土) 10/21 (土) 1/27 (土) 3/9 (土)

コロナ禍で途絶えた交流の場ですが、子どもの活動に付き添う保護者の交流したい思いを受け復活しました。働いている保護者が参加しやすく、小さい子どもを家族に預けて参加できるよう、土曜日開催にしました。

小学生から大学生の子どもの保護者が参加する交流の場は、情報交換や他では話せない悩みや思いをフランクに話し合える場になっています。また、子どもの成長に伴い変化する食物アレルギーとともに歩む生活についても、考える機会にもなっています。



保護者交流会での3つのお約束

- ・この場で出た話はこの場だけのことに
- ・相手の話を否定しない
- ・アドバイスが受け入れられないことがあってもOK

ティーンミート 食物アレルギーの10~20代の中学生、高校生、大学生、社会人対象

開催日 9/30 (土) 参加 3名

ファシリテーター 細川真奈さん (株式会社イートイズ 代表取締役/アレルギーナビゲーター®)

日常生活での、食物アレルギーに関する人間関係の悩みの共有、おすすめの飲食店や商品の紹介、「普段こんな時どうしている？」という相談に対してのアドバイスや意見をお互いに共有しました。「そう感じていたのは自分だけではなかったのだ！」と少し安心でき、勇気ももらえたり、「そういう考え方もできるのか！」といったように、新しい考え方や価値観を発見したりすることもできました。また、食物アレルギーがありながらも将来に向けて、様々な努力をしている同世代の将来の夢やビジョンを聞くことで、パワーをもらうこともできました。

今後は、ファシリテーターを大人が行うのではなく、ティーン自身が行うことを計画しています。ミーティングを自分達でファシリテートすることで、さらに、ティーンのパワーを存分に活かすことが出来るようなミーティングになるように計画しています。(佐藤貴和)



12

2 (土)
商品試食会※
どれみ隊

9 (土)
乳幼児のスキンケア講座
つと

1

11 (土)
イオンレシートキャンペーン
店頭活動

27 (土)
保護者交流会※

2

3 (土)
食物アレルギー勉強会 &
次年度計画※
どれみ隊

24 (土)
H2Oサントチャリティ
トークイベント参加

24 (土)
子どもの食物アレルギー
ミニ講座
つと

3

2 (土)
事例勉強会

9 (土)
保護者交流会※

14 (木)
栄養士さんの日※
つと

第 60 回日本小児アレルギー学会

11月18日(土)・19日(日) 場所：京都市勧業館みやこめっせ

京都市で開催された学会に、どれみ隊の子どもたち、ティーンミート参加の大学生と一緒に、参加・出展しました。

◆ シンポジウム、一般演題、セミナーなどでの学び

テーマに「原点回帰と新たな挑戦」とあるように、疫学データからみるアレルギーマーチを改めて学びなおすシンポジウムや、現在の課題でもある「移行期医療」についての演題などがありました。

参加した職員の感想

- ・移行期の子どもたちへの支援について、現状と課題を知ることができました。支援する側として、常に正しい知識と新しい情報にアンテナを張ることを意識する必要があると強く思いました。
- ・今研究を進めている、食物アレルギー児の自立や意思決定について、研究には「エビデンスが無い」という報告がとても印象的で、「子ども自身の声」をエビデンスとして届けたいと感じました。

◆ ブース出展

子どもを対象とした活動「どれみ隊」・「ティーンミート」・「食物アレルギードリームプランプレゼンテーション」や、ティールパンプキンプロジェクトを紹介しました。(詳細は、とびくす「どれみ隊」で紹介しています)

食物アレルギーの子どもが必要としている子ども視点の自立支援の調査研究

ファイザー株式会社「ファイザープログラム ～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」助成事業

2年目となる調査・研究では、「食物アレルギーの子どもの自立においてソーシャルワークがどのような貢献ができるのか」をテーマに取り組みました。

◆ 1年目の質問紙調査のまとめ直し

選択式回答は記述統計・自由記述欄はKHCorderによるコーディング

- ◆ ペアレント・トレーニングの作成に向けた大学生4名へのインタビュー
- ◆ 小児科医療の協働意思決定の先行研究の研究



つどいの広場（京都市地域子育て支援活動いきいきセンター事業）

利用者 668組 延べ 1,498人

子育て相談員が常駐し、食物アレルギーの有無に関わらず、安心して利用していただけるように努めています。来所された親子と一緒に遊びながら悩みを相談したり、情報交換をしたり、安心して過ごせる場所となるよう、また、食物アレルギーの社会的理解を広める大切な場所として運営しています。

～年間講座・イベント～

- ・ベビーヨガセラピー講座（年7回）
- ・赤ちゃん抱っこ講座（年4回）
- ・パパDAY（年5回）
- ・出張ひろば（月2回）
- ・絵本の広場〜どうぞのいす〜（年3回）
- ・歯科衛生士さんの日
- ・初めての木工体験
- ・絵本大好きお兄さんの日

※食物アレルギーに関するイベントについては
1年のあゆみに記載

栄養士さんの日

9/8（金） 参加 3組 6名

3/14（木） 参加 3組 6名

講師：森久美子先生

（学校法人大和学園 京都栄養医療専門学校 管理栄養士）

離乳食の基本と注意すべきポイントを、教えていただきました。赤ちゃんの食事や食物アレルギーで気になることも相談でき、保護者の不安が軽減されました。



おでかけびいちゃん

京都三条会商店街 in ハロウィンナイト

10/28（土） 参加 46組 99名

ハロウィンの時に軒先などに飾る青いかぼちゃの目印は「食物アレルギーに配慮されたお菓子やおもちゃを用意しています」と、いう意味です。

イベントでブルーパンプキンのマスコット作りや、アレルギー配慮商品のガチャガチャを出し、地域の皆さんに、食物アレルギーを身近に感じていただく機会になりました。



財務諸表

活動計算書

【経常収益】			
受取金費		384,232	384,232
受取寄付金	受取寄付金	137,436	
	商品等受入評価益	315,897	
	ボランティア等受入評価益	408,050	951,583
受取助成金等	受取助成金	2,410,107	2,410,107
事業収益	利用者負担金収益	58,440	
	譲渡料	22,274	
	業務委託料	7,026,000	
	その他事業収益	1,445	7,108,160
その他収益	受取利息	16	16
経常収益 計			10,853,898
【経常費用】			
事業費	人件費	2,592,288	
	その他事業経費	4,808,096	
	ボランティア等経費費用	408,050	
	商品等評価費用	315,897	9,213,281
管理費	人件費	1,939,128	
	その他経費計	112,777	1,551,905
経常費用 計			10,765,186
当期経常増減額			88,712
【経常外費用】			
前期正味財産増減額	前年度繰越正味		1,530
前期繰越正味財産額			87,182
次期繰越正味財産額			△ 1,329,300
			△ 1,242,527

貸借対照表

資産の部	
【流動資産】	
現金・預金	142,345
未収金	3,500
棚卸資産	56,000
貯蔵品	3,322
前払費用	175,500
流動資産合計	381,667
【固定資産】	
借入保証金	300,000
固定資産合計	300,000
資産の部合計	681,667
負債の部	
【流動負債】	
未払金	544,857
前受金	359,382
預り金	3,914
燃費借入金	531,459
流動負債 計	1,924,194
負債の部合計	1,924,194
正味財産の部	
【正味財産】	
前期繰越正味財産額	△ 1,329,709
当期正味財産増減額	87,182
正味財産 計	△ 1,242,527
正味財産の部合計	△ 1,242,527
負債・正味財産の部合計	681,667

ご支援のお願い

FaSoLabo 京都の事業・活動は、「食物アレルギーの子どもと保護者の QOL（生活の質）の向上」を目的に行っています。これには「当事者支援」と「支援者支援」「社会的理解」3つの支援が大切だと考えています。安心して、継続した支援を行うには、皆様からの資金面でのサポートが大きな力となります。



種別	名称	会費	特徴	
正会員		10,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年3回郵送されます。 ●直近の事業報告書が郵送されます。 ●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●イベントや講座に無料または割引料金で参加できます。 ●当法人の総会での発言権・議決権を有し、当法人の事業・活動を実施・運営することができます。 	
フレンズ	個人フレンズ	3,000円	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年3回郵送されます。 ●直近の事業報告書が郵送されます。 ●会員・フレンズ限定LINEに登録でき、いち早くイベントの案内・申込みが可能です。会員限定イベントにも参加できます。 ●イベントや講座に、無料または割引料金で参加できます。 <p>※「フレンズ」は、「利用者」と運営する「スタッフ」という一方的な関係ではなく、「一緒に活動していく仲間でありたい」という思いがこもった名称です。食物アレルギーの有無に関わらず、仲間の輪を広げていけるようにという思いも込められています。</p>	
	団体フレンズ	5,000円 ※イベント参加は1回につき2名まで。		
サポーター	個人サポーター	個人：3,000円～ (以降1,000円単位で任意)	<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年3回郵送されます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。 ●直近の事業報告書が郵送されます。 <p>※食物アレルギーの子どもと保護者を支援したい！という方向け。</p>	
		団体：5,000円～ (以降1,000円単位で任意)		
	企業サポーター	企業：30,000円～ (以降1,000円単位で任意)		<ul style="list-style-type: none"> ●ニュースレターが年3回郵送されます。 ●直近の事業報告書が郵送されます。 ●サポートデスクを商品のモニタリングや広報などに利用できます。 ●ニュースレターへ無料で広告を掲載できます。 ●FaSoLabo 京都のホームページにバナーやリンクを掲載できます。 ●寄付金として税制優遇(※)を受けられます。
		個人事業主：10,000円～ (以降1,000円単位で任意)		

※FaSoLabo 京都は2017年1月より、京都府・京都市の条例指定を受け、認定NPO法人となりました。認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援することを目的としており、下のような税制上の優遇措置を受けることができます。

■認定NPO法人、条例指定認定NPO法人への寄附者に対する税制上の優遇措置

(1) 個人が寄附した場合

- ・所得税の計算において所得控除又は税額控除のいずれかを選択適用できます。
- ・個人住民税（地方税）の計算において、寄附金税額控除が適用されます。

例えば、京都市民の方が京都府と京都市がともに条例で指定した認定・特例認定NPO法人に10,000円寄附した場合、4,000円が税額から控除されます！（税額控除を選択した場合）

(2) 法人が寄附した場合

- ・一般寄附金の損金算入限度額とは別に、特定公益増進法人に対する寄附金の額と合わせて、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。

オンライン寄付決済が可能なファンドレイジングシステム「コングラント」を導入しました。

500円から、定額寄付と単発寄付を選んで寄付ができます。

詳細・お申込はこちらから↓

♪ 用途を限定した寄付「こども応援どれみ隊基金」への寄付ができます

寄付金は子どもが主体となる啓発活動（どれみ隊活動）に使用します。

→ コメント応援機能に「こども応援どれみ隊基金」とご記入ください。

♪ 記載が無い場合でも、事業実施のための運営費にて活用させていただきます。



どれみ隊については裏ページをご覧ください

